

守谷市いじめ防止フォーラム

守谷市保幼小中高一貫教育推進委員会事務局

1 目的

- 各学校の生徒会活動で中心になっている生徒会役員等が集い、自分たちの学校での実践発表を行い、活動における目的や思いを共有し、守谷市全体でいじめ防止に向けて何が共通実践できるかを考える。
- 昨年度採択した「Moriya いじめ防止共同スローガン」を受けて、具体的な取組の柱となる「思いやり宣言」を採択・宣言し、市内外に向けて発信することで、児童生徒自身に「いじめは絶対に許さない、あってはならない」という強い意志をもたせる。
- 市保幼小中高一貫教育の中で、市内全ての学校が将来にわたって「いじめ防止」に向けて共通理解し、それを基にした取組を継続していく契機とする。

2 実施日時 平成27年8月26日（水） 9：00～12：00

3 場所 守谷市中央公民館ホール

- 4 参加者
- ・守谷市内各小学校児童代表3～5名、特別活動（児童会等）担当教員
 - ・守谷市内各中学校生徒会本部役員（代表者はそのうちの3名）、特活部教員
 - ・県立守谷高校生徒会本部役員（代表者はそのうちの3名）、特活部教員
 - ・市生徒指導連絡協議会の構成員
 - ・市内小中校長・教頭
 - ・市内教務主任代表
 - ・市教育委員会
 - ・市PTA連絡協議会代表
 - ・守谷市保幼小中高一貫教育推進委員会事務局（フォーラム推進事務局）
- ※来賓，一般参加者（含保護者）

5 フォーラム実施までの活動

月 日	曜	担 当	内 容
4 / 21	(火)	市一貫教育企画部会	今年度の方向性についての協議を行い、具体案作成への計画を立てる。
5月中旬		市教頭会 市教務主任会	今年度の方向性・計画等を市内全小中学校に周知する。
～6月初旬		事務局	事務局原案の作成。関係諸機関へ連絡を行い、助言・指導を受け、案を完成する。
6 / 12	(金)	実行委員会	フォーラムの流れ・資料についての確認をするとともに、リハーサル・当日の運営についての協議を行う。
6月中旬		事務局	守谷高校・市教委指導室への協力依頼と内容説明を行う。
6 / 29	(月)	市一貫教育企画部会	フォーラム実施に向けての進捗状況を報告すると共に、懸案事項について検討し指導を受ける。
～7月下旬		事務局	中央公民館にて会場確認を行い、実施計画の細部を詰める。各校の発表に使用するプレゼン原稿を集約し、編集する。
8 / 19	(水)	実行委員会	各校児童会・生徒会担当、指導室、事務局、小中高の児童生徒の参加の下、事前打ち合わせとリハーサルを行う。
～8 / 25		各校担当者	リハーサルを受け、発表内容・プレゼンテーションの改善、始動を行う。守谷高校代表者は、フォーラム全体の流れの確認を行う。
		事務局 教頭会	各校プレゼン原稿・台本の修正と最終確認を行う。前日は、中央公民館で、座席等の会場準備・ステージ上の設営・視聴覚機器の確認等を行う。

6 プログラム 司会（守谷高校生徒会役員）

○来賓紹介（守谷高校生徒会）

- (1) 始めの言葉（高野小代表児童）
- (2) 「いじめについて」「昨年度採択したスローガンについて」の実行委員からの発表（守谷高校生徒会）
- (3) 各小学校での取組発表（大井沢小→大野小→高野小→守谷小→黒内小→御所ヶ丘小→郷州小→松前台小→松ヶ丘小）
- (4) 各中学校・守谷高校での取組発表（守谷中→愛宕中→御所ヶ丘中→けやき台中→守谷高校）

- (5) 各校の取組に対する意見交換（各中学校・守谷高校代表者）
＜休憩＞
- (6) テーマに基づいた「思いやり宣言」の採択への話し合い
 - ①意見交換（各校代表）
 - ②各中学校区での「思いやり宣言」原案の話し合い（各小中学校・守谷高校代表）
 - ③「思いやり宣言」の採択（各小中学校・守谷高校代表）
- (7) 「思いやり宣言」の発表・宣言（各校代表・市P連代表）
- (8) 「思いやり宣言」を基に各校で行う取組についての決意表明
- (9) 今回のフォーラムについての感想（小学生・保護者・一般市民・来賓）
- (10) まとめの言葉
- (11) 終わりの言葉（愛宕中代表生徒）

7 成果と課題

- (1) 各校が、昨年度の第1回フォーラムで採択したスローガンを受け、独自に実践してきたいじめ防止・撲滅に関する取組を発表することで、相互の取組に関しての理解といじめ防止に関する認識を共有することができた。各校とも、昨年度の発表を参考に、発展的に取組の充実を図っていた。

- (2) フォーラム後半は、SNSの取扱への注意や、いじめへの発展の危険性について活発な意見交換の後、Moriya 思いやり宣言 2015として、以下の内容が採択された。

- ①**ネット上のコミュニケーションでは、見えない相手だからこそ自分が発信することに責任をもちます。**
- ②**ネットを使うときのルールや約束を家族や相手と決めます。**
・利用時間や終わる時間を必ず決めます。
- ③**大切なことは直接会って、話したりコミュニケーションをとったりします。**

この思いやり宣言を各校が自校へ持ち帰り、各校独自の活動を展開していった。昨今懸念されているSNSのトラブルやコミュニケーションに関する配慮・相手を思いやる気持ちについて、市内の児童生徒が真剣に考えるよい契機となった。

- 市内全体で、いじめはしない・させない、相手への思いやりを常に大切にし、いじめのない守谷市にしていこうという大きな活動への原動力となった。
- (3) フォーラム実施への準備・リハーサルや当日の活動を通して、校種・学校を越えて意見交換や共感、協力する児童生徒の姿が多く見られた。第2回ということもあり、参加した代表児童生徒は、フォーラムの意義や意見交換・採択活動の大切さを考えながら、活動していた。小学生の意見に傾聴し、宣言に取り入れている中高生の姿勢は、まさに一貫教育醸成の結果であるといえる。
- (4) 今回、児童生徒が採択した宣言に対して、市P連会長の賛同を得たことは、意義のあることである。子どもたちが発信した意見を、大人が受け止め認め、支援していく流れは、まさに地域ぐるみの活動である。地域社会全体にその精神を伝えていくことは、地域に根ざした公立学校として大きな意義があると考えられる。今後、今回採択した思いやり宣言の趣旨を活かし、各学校が「いじめゼロ」に向けた取組をさらに発展・継続していくことが大切である。



【昨年の第1回フォーラムで採択されたスローガン】



【取組発表（小学校）】



【取組発表（中学校）】



【活発な意見交換】



【小学生からの意見発表】



【思いやり宣言採択】



【若杉勇市P連会長の話】